

オニグルミ（鬼胡桃）クルミ科クルミ属

名前の由来＝オニはごつごつした種子の表面からの連想、クルミは漢字表記で「胡桃」、これは「胡（えびす）の桃」と言う意味、「胡」とは中国の北方や西方にいた異民族を指す言葉です、クルミは異民族の国から伝わった、種子が桃に似た食べ物だという事で、「胡（えびす）から伝えられた桃の種に似た実」から「くるみ（胡桃）」となった。羽状奇数複葉で春先の新芽はクセがなく天ぷら等で美味、実の薬効も素晴らしく、疲労回復、血液の流の改善、心臓疾患の改善、脳神経の発達促進、ウツやアルツハイマーといった神経系統にも効果が認められている。堅い種子の殻は熊でも割ることが出来ないで、此の殻を利用して雪道などに使う「ガリガリタイヤ」の開発をして今では「スタットレスタイヤ」に分類され販売されている。日本の固有種として、特に東北地方の縄文遺跡からはオニグルミの殻が多く出土しており古代から食べられていた。又、木材として「ウオールナット」の名で知られている、製材後の狂いが少ない事から、家具や建築、彫刻など多く利用されている。***花言葉＝あなたに夢中・至福の時**



キササゲ（木大角豆）ノウゼンカズラ属キササゲ属*花期= 6 月

名前の由来＝木に成る野菜のキササゲに似ているので、では「キササゲ」は？ 鞘の先が上の方に反り返る姿が、物を捧げ持つ形に似ていることから「キササゲ」となった説、又の説、鞘を牙（きば）に見立て「細々牙」とした説、等、諸説ある。中国原産の落葉高木15mほどになる、日本には江戸初期に薬用として渡来、栽培されていたのが逸出して河岸などの湿地に野生化している、大きな広い葉で対生、＜薬効＞果実と根皮、樹皮は生薬として腎臓、肝臓の機能改善に有効、その他、利尿効果、解熱、解毒効果、水虫に効果があるとされる。花は淡黄色で内側に紫色の斑点がある、***花言葉＝夢心地**



ハエドクソウ（蠅毒草）ハエドクソウ科ハエドクソウ属

名前の由来＝この植物全体に有毒成分があり、根を搾り下ろしたり煮詰めた汁を蠅取り紙に使われていることに由来する。有毒成分はリグナンの1種フリマロン、人が食べると嘔吐などを引き起こす。葉は茎の下の方にまとまって付き対生、粗い鋸歯がある、花軸を長く伸ばし20～50cm下から順番に唇形の小花を順番に咲かせる、花色は薄いピンクだが肉眼では白色に見える、平地の林内に生育するが、ほとんど陽が入らない場所に生えている、世界中で一科一属だけの珍しい植物。別名、ハエトリソウ・ハエゴロシ。***花期= 6～8 月 *花言葉＝一芸に秀でた**



メハジキ（目弾き）シソ科メハジキ属 *花期 = 7～9 月

名前の由来＝昔子供たちが、茎に弾力があるのを利用して、短く切った茎を脇の間に挟みメハジキを飛ばして遊んだ、と言う説、又、切った茎を脇につつかえ棒のように挟み、目を大きく開かせて遊んだ、と言う説がある。四角い茎が直立したまに分枝する、短毛が密に生える、茎に付く葉は対生で上部になるほど小型になる、下部の葉は長い柄があり深く3裂し更に全裂、裏面は白色の短毛が密に付く、花は上部の葉腋に数個ずつかたまって輪散花序になつて付く、花冠は10～13mmの2唇形で外側に白色の毛が密生、***花言葉＝よき願い・心は優しい・現実逃避・憎悪**



フサフジウツギ（房藤空木）ゴマノハグサ科フジウツギ属*花期 = 6～9

ブットレアとも言う、イギリスの縮物学者の名前。**名前の由来**＝濃い紫色の集まった小花の姿を藤の花に見立て、葉が空木の葉に似ているので。本種の茎は空洞ではない。中国原産の落葉低木、高さ50～300cmになる、日本の中部地方の石灰岩地に自生する在来種であると言う説もある。葉は披針形で約17cm裏面に柔らかい星状毛が密生する、花は良い香りがする、花色が違う園芸種が多い、その香りに寄せられて蝶々や蜂などを呼び寄せるので**花言葉にも *恋の予感・魅力・あなたを慕う・親しみのある関係、**



リュウゼツサイ（龍舌菜）キク科アキノノゲシ属 *花期 = 9～10 月

アキノノゲシの変種とされる、中国南部原産で、昭和の初期に台湾から渡来、ニワトリの飼料として栽培していたが野生化した、アキノノゲシより葉の幅が広くて大きい、**葉の切れ込みの形が龍の舌に似ているという事での命名**、中国や台湾では若葉を掻いて取り、お浸し、和え物、油炒めなどで食べられている。秋には、茎の先端で分枝して黄色の頭花を多数さかせる。日本では認知度低い。

